

# ME-BYO SYMPOSIUM 2018

Aiming to realize an "Ageing Society with a Smile up to 100 Years Old" by Curing "ME-BYO"

「未病改善」で目指す「スマイル100歳社会」

開催記録

2018.10.12

ME-BYO サミット神奈川 実行委員会

ME-BYO Summit Kanagawa Executive Committee



私たち一人ひとりの行動が、  
未来につながる。

SDGs 未来都市 神奈川県

## 開催概要

名称 ME-BYO シンポジウム 2018  
 会期 2018年10月12日(金) 13:00~16:00  
 会場 横浜ベイホテル東急 クイーンズ グランド ボールルーム  
 主催 ME-BYO サミット神奈川実行委員会  
 後援 内閣府/文部科学省/厚生労働省/農林水産省/経済産業省/公益社団法人神奈川県医師会/  
 一般社団法人神奈川県歯科医師会/  
 日本経済新聞社/読売新聞東京本社/神奈川新聞社/tvk(テレビ神奈川)/一般財団法人バイオインダストリー協会

名誉実行委員長	神奈川県 知事	黒岩 祐治
名誉顧問	横浜市長 相模原市長	林 文子 加山 俊夫
実行委員長	東京理科大学 学長	松本 洋一郎
副実行委員長	箱根町長 神奈川県 副知事	山口 昇士 首藤 健治
監 事	平塚市長 厚木市長	落合 克宏 小林 常良
実行委員 行政	横須賀市長 鎌倉市長 藤沢市長 小田原市長 茅ヶ崎市長 逗子市長 三浦市長 秦野市長 大和市長 伊勢原市長 海老名市長 座間市長 南足柄市長 綾瀬市長 葉山町長 寒川町長 大磯町長 二宮町長 中井町長 大井町長 松田町長 山北町長 開成町長 真鶴町長 湯河原町長 愛川町長 清川村長	上地 克明 松尾 崇 鈴木 恒夫 加藤 憲一 服部 信明 平井 竜一 吉田 英男 高橋 昌和 大木 哲 高山 松太郎 内野 優 遠藤 三紀夫 加藤 修平 古塩 政由 山梨 崇仁 木村 俊雄 中崎 久雄 村田 邦子 杉山 祐一 間宮 恒行 本山 博幸 湯川 裕司 府川 裕一 宇賀 一章 富田 幸宏 小野澤 豊 大矢 明夫
アカデミア (大学・団体)	横浜国立大学 学長 神奈川県立保健福祉大学 学長 横浜市立大学 学長 慶應義塾大学 経済学部教授 東海大学 学長 横浜薬科大学 学長 (一社) 日本健康生活推進協会 理事長 (一財) バイオインダストリー協会 専務理事	長谷部 勇一 中村 丁次 窪田 吉信 塩澤 修平 山田 清志 江崎 玲於奈 大谷 泰夫 塚本 芳昭
企業	味の素(株) 取締役常務執行役員 イオンリテール(株) 営業担当取締役執行役員 副社長 富士フイルム(株)	木村 毅 井出 武美
オブザーバー	川崎市長	福田 紀彦

## プログラム

13:00-13:05	開会挨拶 松本 洋一郎 実行委員長 東京理科大学学長
13:05-13:15	基調講演 黒岩 祐治 名誉実行委員長 神奈川県知事
13:15-13:45	特別講演 テーマ「ヘルシーエイジング～健康な高齢化～」 ジョン・ベアード WHOエイジング・アンド・ライフコース部長
13:45-14:40	パネルディスカッション① テーマ「スマイル100歳社会を生きるヒント」 ～新たなME-BYO社会の仕組みづくり～  【モデレーター】 大谷 泰夫 公立大学法人 神奈川県立保健福祉大学理事長  【パネリスト】 大坪 寛子 内閣官房 健康・医療戦略室次長 大木 哲 大和市長 堀 真奈美 東海大学健康学部長 戸田 雄三 一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム代表理事・会長 首藤 健治 神奈川県副知事
14:40-14:50	休憩
14:50-15:50	パネルディスカッション② テーマ「ME-BYOが拓く新たなマーケット」  【モデレーター】 宮田 俊男 神奈川県顧問  【パネリスト】 江崎 禎英 経済産業省商務・サービスグループ政策統括調整官 野口 泰志 味の素(株) 研究開発企画部シニアマネージャー 高田 幸徳 住友生命保険相互会社 執行役常務 片山 敦 AIIG損害保険(株) 傷害・医療保険担当執行役員



## 開会挨拶 松本 洋一郎 ME-BYO サミット神奈川実行委員会 実行委員長 東京理科大学学長

2015年、第1回のME-BYOサミット開催にあたり、実行委員長をつとめました。当時、「急速に進展する高齢化にいかに対応するか」ということは社会の共有課題と認識されていましたが、「ME-BYO（未病）」という概念は、まだまだ定着していませんでした。ところが今日では、さまざまな場面で「未病」「人生100歳」、という言葉が聞かれます。また第1回のサミットを踏まえ、「未病サミット神奈川宣言」として発信したME-BYOコンセプトも着実に社会に広がりつつあります。

昨年の第2回目のサミットでは、個人の行動変容を促すべく「未病指標」の構築に向けて論議し、その成果を「ME-BYO 未来 戦略 ビジョン」としてとりまとめました。100歳になっても健康で生きがいと笑顔あふれる健康長寿社会（「スマイル 100歳社会」）を2025年の目指す

べき未来社会と位置づけ、多様な主体の役割や行動目標を定めたところで

す。今回のME-BYOサミットの橋渡しとなる今回のシンポジウムでは、2つのパネルディスカッションを開催します。第1部では「スマイル100歳社会を生きるヒント」と題して新たなME-BYO社会の仕組みづくりを、第2部では「ME-BYOが拓く新たなマーケット」と題して、未病を改善する商品、サービスなどについて議論していただきます。

分野・領域に捉われず、あらゆる方が「自分ごと」として議論を交わす。そうした営みのなかで、ME-BYOコンセプトが磨き上げられ、社会の中での価値が共有されていくことになればと期待しています。



## 基調講演 黒岩 祐治 ME-BYO サミット神奈川実行委員会 名誉実行委員長 神奈川県知事

1963年に153人だった日本の100歳以上人口はいまや、およそ7万人。2050年には53万人になるともいわれます。従来の社会システムのままでは、こうした人口動態の変化に対応しきれなくなることは明らかです。

現状を切り拓くキーワードこそ、ME-BYOです。健康と病気との間にあるグラデーションのような変化、つまり「未病」という状態に着目し、病気になってから対処するのではなく、少しでも「健康」寄りの状態にしておくことを重視します。このアプローチを「未病改善」といい、食・運動・社会参加を、その核と位置付けています。

神奈川県では、未病の改善と最先端医療・最新技術の追求という2つのアプローチを融合し、新たな市場や産

業の創出と、健康寿命延伸に取り組んでいます。

未病産業研究会のメンバーは年々増え、現在627社。ME-BYOブランドの新しいテクノロジーも着々と発表されています。「マイME-BYOカルテ」や電子母子手帳アプリを活用し、長期間データを収集する「ヘルスケアICT」も進んでいます。加えて2019年4月には、ME-BYOコンセプトに基づき、社会システムに革新をもたらす人材を育成する「ヘルスイノベーションスクール」も開校するほか、国外の機関との連携も広がっています。

2017年に開催したME-BYOサミットでは「未病の指標化」を議論し、世界保健機関(WHO)と連携し、国際的枠組みで未病指標の構築に向け動き出しました。

WHOの主導する、高齢者に優しい地域づくりに取り組むグローバルネットワーク「エイジフレンドリーシティ」にも、県内21市町村が参加するほか、県も市町村を支援するアフィリエイトとなっています。

医療だけではなく、環境や農業等、すべての取組みを連携させ、いのち輝くかながわをつくっていく。これは国連の採択したSDGs（持続可能な開発目標）と全く同じ方向性であり、100歳になった時に、みんなが笑っている社会をつくる事が目標です。



## WHOエイジフレンドリーシティ参加承認証明書授与式

WHOエイジフレンドリーシティとは、WHOが主導する、高齢者に優しい地域作りに取り組む自治体等の国際ネットワークで、現在39カ国720の市町村が参加している。日本では、秋田市、宝塚市に加え、神奈川県から19の市町村が参加。さらに今年、茅ヶ崎市と秦野市の2市が新たに参加することとなった。

シンポジウムで参加承認証明書を授与した、WHOのジョン・ベアード氏は、「WHOエイジフレンドリーシティは、ニューヨークで2010年に設立されました。現在ではニューヨークのほか、ロンドンやパリ、テヘラン等の世界的大都市が参加の承認を受けております。今回、神奈川県から新たに2つの市を参加者として迎えられることを、本当にうれしく思っております」と挨拶をした。



エイジフレンドリーシティ参加21市町

横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町、大和市、藤沢市、伊勢原市、大磯町、小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、茅ヶ崎市、秦野市

## 特別講演

## ヘルシーエイジング～健康な高齢化～

ジョン・ベアード WHOエイジング・アンド・ライフコース部長



今から2年前に黒岩知事にジュネーブのWHO本部を訪ねた際、ME-BYOコンセプトの話聞き、我々が考えていたことと全く同じであったので非常に感銘を受けました。

WHOの健康の定義は、単に疾病のない状態を指すものではありません。特に高齢の方にとっての健康とは、その人らしく、したいことをできることだと考えています。つまり、ヘルシーエイジング(健康な高齢化)とは、高齢の方でも自分でできる環境を整え、低下した能力を補うことで、笑顔で日々を送ることが出来ることだと考えています。

個人レベルでは、住宅や食事、安全面の確保が重要です。加えて、学習機会や成長・意思決定の欲求に対応できる環境整備も重要です。社会の一員として健やかな生活を営むには、社会貢献の機会も必要です。これらに対応する環境が整備されてこそ、ヘルシーエイジングは実現されます。

人間の能力は、高く安定した状態から徐々に低下し、能力喪失へと段階を経て衰えます。能力が高く安定しているときには、健康的な生活習慣の奨励や、疾患の早期発見等の支援が大事です。

個々の能力が低下し始めたら、公衆衛生や健康福利の面でケアをして、できるだけ能力を維持させる必要があ

ります。ここで重要なのは、さまざまな疾病等に対して、個別に当たるのだけではなく、一人の人の健康状態を全体的にみることです。膝の痛みと胃の不調が同時に起こった場合に個別対応するとそれぞれの治療が妨げになることもありうるからです。そのために、人の能力に関する指標を設けることを検討しています。

さらに段階が進むと、疾病等の重症度が増す可能性もあります。関節症が悪化して、移動もままならないという方には、公共交通等の支援が不可欠です。高齢になり心身の機能が低下しても、尊厳をもって自立した生活を送れるよう包括的なケアを行う。そして、健康状態はもちろん、その人をとりまく環境まで含めて包括的に支援をする。この意味でヘルシーエイジングとME-BYOのコンセプトには合致する部分があるといえます。

WHOのグローバルネットワーク「エイジフレンドリーシティ」はまさに、この概念を基に始まっています。ヘルシーエイジング実現に向け「高齢者への見方を変える」「環境構築」「ヘルスケアシステムをニーズに合わせてつくりかえる」「長期的ケアを万人に行なう」「状況のモニタリング」の5つを目標に掲げています。

健康な高齢化というWHOの戦略は、SDGsの骨格でもあります。今後も、神奈川県のリダーシップに期待しています。

## パネルディスカッション 1 スマイル100歳社会を生きるヒント 新たなME-BYO社会の仕組みづくり

【モデレーター】

### 大谷 泰夫

公立大学法人  
神奈川県立保健福祉大学 理事長



私は現職に就くまでの40年間ほど、厚生労働省や内閣官房で社会保障政策を担当していました。4年程前に黒岩県知事の提唱する「未病コンセプト」に深く共感して以来、この概念を広く社会に普及させるべく県と一緒に取り組みを進めています。

従来は医療も個人も、そして行政も、健康か病気かに

わけて、人間の健康状態を捉えていました。しかし感染症等を別にすれば本来、人間の心身の状態は常に病気と健康の間を行ったり来たりしているのです。

重要なことは、病気になったからといって、必ずしも「病人」としてしか生きられないわけではないということです。仕事や趣味を楽しみながら治療を続けている人はたくさんいらっしゃいます。老化や疾病に自分の生き方を制限されないために、自分は何を考え、どう行動するのか。未病コンセプトを広めるには、そうした発想をもつ人を増やすことも重要だと考えています。

【パネリスト】

### 大坪 寛子

内閣官房 健康・医療戦略室 次長  
医学博士



内閣官房 健康・医療戦略室は、国民ひとりひとりが健やかに生活し、老いることができる健康長寿社会の実現を目指し、世界最高水準の医療の提供に資する研究開発の推進等に取り組んでいるところです。私自身、厚生労働省の医系技官、そして大学病院で血液内科の専門医として働いてきた経験も踏まえながら、人生100年時代に多くの方が健康を享受できるようにするために必要な健康・医療政策とは何かを考え続けてきました。

高齢化が進む中、健康寿命は現実に延伸しています。2010年と比べると、2016年の健康寿命は男性で1.72年、

女性で1.17年延びています。今後、これをさらに伸ばしていくことこそが、我が国の持続的成長のためにも重要な課題となっています。2014年には健康長寿社会の形成を目的とする健康・医療戦略推進法が成立しました。この法律に基づいて設置された健康・医療戦略推進本部では、同年に「健康・医療戦略」を閣議決定。2017年の一部変更の際には「未病」の定義が盛り込まれました。国の正式な文書に、未病という言葉が使われたのは初めてのことで、このコンセプトの重要性を国としても認知したところです。

この戦略は来年度中に改定することとなっています。未病の段階から健康状態を維持できるようにするには、どんな施策が必要か。そうした視点をもって、検討を進めてまいります。

【パネリスト】

### 大木 哲

大和市長



大和市の人口は約23万5000人。私が市長に就任して12年目を迎えました。就任以来、市政の中心に据えてきたのが「健康」です。やまと市総合計画では、人の健康、まちの健康、社会の健康という3つの領域において、「一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち」など、7つの基本目標を設定。市の全ての事業を、「健康」をキーワードに体系化しています。

また、「65歳以上は高齢者」という既成概念が足かせになっている現状を打開するために「70歳代を高齢者と言わない都市 やまと」宣言を今年4月に行いました。70歳

台の方に対してポジティブなメッセージを発することで、生涯現役意識を高めながら、健康寿命を延伸することなどがそのねらいです。

市民の健康な生活を維持・増進するための一貫した取り組みが評価され、16年には中国・上海で開催されたWHOヘルス・プロモーション国際会議にも招待されました。

市の持続可能性を考えるうえでも、市民の健康は欠かせない財産です。それだけでなく市民一人ひとりにとって、自分や家族の健康は生活の土台です。県の取り組みとも連携しながら、さまざまなアイデアを市の職員と共に実現し、市民の健康維持の施策をより一層強化できたらと考えています。

【パネリスト】

### 堀 真奈美

東海大学健康学部長



2018年度より東海大学に健康学部を新設しました。私自身、社会保障政策の専門家として社会保障制度審議会等でマクロレベルの政策審議などを行ってきましたが、やはり重要なのは各地で実務を担える人材の育成です。人口減少、高齢化社会という、どうしても先行きに明るい見通しを持ちづらいものです。しかし、健康寿命を延ばすことができれば高齢者にとっても、若者にとっても希望がわきます。

そのために必要な人材を育てるには、従来の医学的なアプローチだけでは不十分です。新設した健康学部では、「病気が、そうでないか」で健康状態をみるのではなく、

【パネリスト】

### 戸田 雄三

一般社団法人再生医療  
イノベーションフォーラム代表理事・会長



日本ではすでに4人に1人以上が65歳以上という、世界でも例をみない超高齢化社会となっています。当然、従来の社会システムはこれを前提としていないので、いろいろな不整合が生じます。例えば高齢者の働き方や社会参加、あるいは「豊かさとは何か」について、社会全体が見つめなおすべき局面がきています。また、従来の社会システムでは、病名がついたときには治すことのできない病気には対応できません。そこでME-BYOコンセプトを活かすことで、現状は診断後に治療が始まりますが、がんや認知症、糖尿病なども未病の段階から適切なケアをして、病気の手

【パネリスト】

### 首藤 健治

神奈川県副知事



現在の日本には、疾患に対応した医療保険、老化に対応した介護保険という社会システムがありますが、その手前の未病状態に対応する社会システムはまだできていません。この未病領域の社会システムをつくる必要があります。神奈川県は日本をリードするモデルを作っていきたいと考えています。

それには技術の進化が大変重要となってきます。例えば、血糖値を、採血せずに体液パッチで24時間2週間にわたり毎分測れる技術が開発されています。これを使え

健康を総合的に捉え、「栄養・運動・メンタル・社会」の4つの領域から健康状態をみることでできる人材を育成します。私たちの目指すもの、ビジョンはME-BYOコンセプトとも重なるのです。

東海大学としましても、今年度から「KENKOプロジェクト」を開始し、キャンパスでの禁煙を促進する仕掛けづくりなど、キャンパスそのものをKENKOをテーマにブランド化していこうとしています。また、10月には県や近隣市町村、企業と共に地域の健康課題の解決を推進する会議を立ち上げました。

大学にとっても、地域にとっても、健康分野で共同研究をしてみたいという企業にとってもwin-win-winの関係を築けるよう、注力してまいります。

前で手を打つことが大事です。予防、早期診断、早期介入。この3つが非常に大切です。スマイル100歳社会の実現には、生きがいや楽しみを持ちながら年を重ねる、サクセスフルエイジングの普及も欠かせません。身体機能や脳は老化によって衰えるけれども、心はその限りではありません。楽しみをみつけて、前向きに物事を捉えることも大切です。ME-BYOは単に健康面だけの概念ではなく、さまざまな人がいて社会が成り立っているのだと認め合う、インクルーシブ社会の土台となるような考え方だと、私は捉えています。高齢者であれ、がん患者であれ、それぞれに生きがいをもって生きることを受け合う。それができて初めて、現在の人口動態に見合う保険制度や社会制度を構築することができ、スマイル100歳が達成されるはずだと考えています。

ば生活状況と血糖値の関係など詳細なパーソナルエビデンスを蓄積することができますが、これは現状医療の対象外です。

また、転倒対策は、現状では介護・医療の範疇外ですが、お年寄りは転倒から介護状態になり、そこから一気に悪化する人が多いので、普段の歩き方を最新の技術で計測・分析して転倒リスクを事前に示し、未病の状態での改善に導くサービスができています。こういった技術の市場は今後非常に大きな成長が期待されています。

今まで医療や介護においてコストとなっていたものを、未病領域で改善することでバリュー（価値）に変えていき、技術革新を活用し、市場を拡大させながら、社会全体の最適化を目指していきたいと考えています。

## 人生100年時代の「生き方」を一人ひとりが主体的に選ぶために

**大谷** 今後、未病という概念を普及させるため、国としてはどういった施策を展開していくのでしょうか。

**大坪** これまでの医療は診断や治療に重点が置かれてきました。医療にまつわる研究開発でも、やはり診断・治療を重視してきています。しかし健康寿命の延伸という目的に照らし、予防にも目を配る必要があります。ここでいう予防とは未病と重なる意味をもち、病気になる前や、病気になった後の重症化予防も含むと考えます。「未病」とは何かをブレークダウンして、企業とも積極的に連携しながら、研究開発を推進していきたいと考えています。

**大木** 一番大きなところでは、未来に向かって一緒に歩んでいく。その意識を共有するということですね。大和市ではすでに10年以上、「健康」を軸としたさまざまな施策を実行してきた実績がありますから、他自治体の参考となる取り組みがあると思います。

**大谷** 未病にアプローチする研究開発を、教育機関や行政、企業や地域住民と結び付けていく社会実装のプロセスは今後、どのように進んでいくのでしょうか。

**堀** 私たち大学側は、教育機関として様々なプレーヤーと連携をとりながら、社会に開かれた研究開発フィールドを提供するという役割を果たせると考えています。現在の課題の一つであるME-BYO指標の開発、測定を実現するための研究も、もちろん企業と協働で進めていくことは可能だと思います。社会実装の枠組みを作るうえで、大学が果たせる役割は大きいですから、主体的に取

り組んでいきたいですね。

**大谷** 先ほどの講演で「認知症と診断されてから治療するのは遅い」というお話がありました。具体的には、どの段階でどういうプロセスがあるとよいのでしょうか、また行政はどういった関わりをすべきでしょうか。

**戸田** 未病の状態からいかに認知症が進行し、発症するかといったメカニズムがかなり明らかになっています。そうした科学を、従来は治療に活かしてきたわけですが、認知症にはどんな兆候があるのか、あるいは食生活等含めた生活習慣で発症を遅らせることはできないかといった視点で活用していくことが求められます。併せて、病気にならないと治療行為ができないという、現状の制度も見直す必要があります。産学官が連携して新しいソーシャルシステムを考えていくべきでしょう。

**大谷** 政府や地方自治体、教育機関、企業のみならず、幅広い意見が寄せられました。神奈川県では、これらの意見を今後どのように活かしていきますか。

**首藤** 未病コンセプトは世の中に新しい価値をもたらすと考えていますが、その価値を社会のシステムに組み込むことが重要です。様々な保険会社が、健康状態が良くなった人の保険料を安くしたり、健康行動に取り組む人に対し提携する飲食店の飲食代を安くしたりなどのサービスを始めています。このように保険の概念を超えているいろいろな分野の産業との連携の広がりも期待できます。また、行政としては様々な取組みを評価する仕組みをつくり、共通言語化することも必要だと考えています。

**大谷** 人生100年時代の到来によって、医療のみならず、さまざま社会システムが曲がり角に直面し、変化を迫られています。しかし注意せねばならないのは、行政や政府、企業といった大きな組織だけに変化を期待していたのでは、本質的な変化は訪れないということです。「未病」とは、「年を重ねてからも、自分らしく健康に生きる道」を個人で選びとり、それを実現するために個人が主体的に動くプロセスなしには普及しえない概念です。「人生100年時代、自分はどのような生き方を選択するのか」が発点であるということ、強く認識すべきだと、改めて実感しました。



## パネルディスカッション 2 ME-BYOが拓く新たなマーケット

[モデレーター]

**宮田 俊男**

神奈川県顧問  
大阪大学産学共創本部特任教授  
厚生労働省参与



新たなマーケットの構築は未病政策を社会に浸透させていくうえでも大きな意味があります。

神奈川県は未病産業研究会を設立し、600社を超える企業に参加し、未病に関する勉強会や意見交換等を行っています。また、未病に資する優れたサービスや商

[パネリスト]

**江崎 禎英**

経済産業省 商務・サービスグループ  
政策統括調整官  
(兼) 厚生労働省 医政局 統括調整官  
(兼) 内閣官房 健康・医療戦略室 次長



私たちは、高齢化を「対策すべきもの」と感じるネガティブな認識を改めることが大切です。ヒトの生物学的な寿命は120年。「還暦」とは暦が一周したという意味。暦が二周する120年は「大還暦」というのです。ひと昔前までは、「人生60年」が当たり前でしたが、

[パネリスト]

**野口 泰志**

味の素株式会社  
研究開発企画部・シニアマネージャー



1908年創業の当社は、「おいしく食べて健康づくり」という非常にシンプルなビジョンのもと、1世紀以上にわたり、アミノ酸を軸にさまざまな事業を展開しています。

高齢化が進み平均寿命も延びていますが、生物学的にみると人の身体の機能は年を重ねるごとに低下し、病気

[パネリスト]

**高田 幸徳**

住友生命保険相互会社 執行役常務



従来の生命保険は病気や、万一のときのための経済的な備えとして機能してきました。しかし、今年7月から当社が発売を開始した“住友生命「vitality」”は、リスクに備えるのではなく、健康リスクそのものを削減するための保険です。南アフリカのDiscovery社が開発した仕組みで、加入者は月額864

品を県が認定する、ME-BYO BRANDも設けました。活発な研究開発を支援すべく、県がモニターを確保して、新たな未病改善技術サービス等を実証するフィールドを提供するME-BYOリビングラボも運営しています。加えて、東京大学COIとも連携し、未病指標の構築にも取り組んでいます。

神奈川県が未病改善のフロントランナーとなり、最終的には国の施策を引き出せるよう、一連の取り組みを今後も続けていきます。

これからは「人生100年時代」。子育てが終わった後、自分と社会のためだけに全てのエネルギーが使える素敵な時間、つまり2周目の人生が待っているのです。世界で最も高齢化の進んだ国として、2周目の人生における「幸せのかたち」を見つけることが日本の役割です。病気になってから公的な制度に頼るのではなく、楽しくワクワクするサービスを利用しながら、一人ひとりが主体的に行動し、最後まで自分の生きる意味を実感できる社会を実現することが大切です。

にもかかりやすくなります。当社では、高齢者になっても健康に過ごせるよう40代後半以上の方に向けて、未病改善の製品やサービスを提供しています。高齢者になる少し手前の段階、いわば「2周目の人生のスタート地点」から、適切な食材や料理、あるいは栄養をお届けして、その後に備えた身体作りのサポートができればと考えています。認知症予防のために、食事からのアプローチができないかというのも、興味をもって研究し続けている課題です。

円を支払い、健康プログラムに加入します。食生活や運動習慣などをオンラインでチェックしたり、ウォーキング等の運動を行うことでポイントが与えられ、一定以上のポイントを獲得すれば、次年度の保険料が下がるという仕組みです。不摂生や運動不足が続くと保険料が上がる場合もあります。日ごろからの健康的な生活習慣を動機付けるこの商品は、加入者、保険会社、社会それぞれに価値をもたらす、Creating Shared Value、つまり共有価値の創造という理念の実現にも貢献します。

[パネリスト]

## 片山 敦

AIG損害保険株式会社  
傷害・医療保険担当執行役員



未病と損害保険にどのような関わりがあるのか、疑問に思う方は多いでしょう。当社では、ACTIVE CAREという概念を事業戦略上のキーワードとしています。保険の価値、メリットは実際にリスクが発生してみなければ実感しづらいものですが、私たちはリスクを回避するためのさまざまなサ

ービスをご提供することで、平時から保険の価値をお客様に実感していただきたいと考えています。これは未病の概念と非常に親和性の高い考え方です。

中小企業のお客様に人に関する保険を中心に販売しておりますが、ACTIVE CAREに基づき、事故や病気を防ぐための予防策を充実させているのはもちろん、病気になった従業員の方がスムーズに職場復帰できるよう、事故や病気の前後をシームレスにカバーするサービス、保証を提供しています。

## 未病産業を社会に根付かせ、明るい高齢社会を実現

**宮田** 未病産業が今後、どのような広がりを見せるかといったことについて議論ができればと思います。まず、企業が未病改善のコンセプトに共感し、ビジネスとして定着させようとする中で、現状ではどのような課題があると感じていらっしゃいますか。

**野口** 私どもは40代以上、つまり現役世代の方に栄養を通じて、年を重ねても健康を維持できるように…、というアプローチをしておりますが、正直なところ、かなり難しいです。やはり症状が顕在化しないうちから、健康への意識を高くもつ方は少ないのが現状です。

だからこそ、みなさまが日ごろの生活の中で抱えている不便さを解消できるような「何か」をフックにして、結果的に、その製品やサービスを利用し続けたら健康になった、という状況へつなげるのが現実的かと思います。

食一つとっても、買い物から調理、食事といった各段階ごと、みなさん様々なニーズや不便さを抱えています。たとえば、共働き家庭が当たり前になるなかで、女性が家事に割ける時間は年々短くなっています。そうすると、毎週末同じ食材を買って、同じように調理して食べるのが当たり前という家庭も増えますから、栄養も偏ります。

献立でアプリを提供することで、同じ食材でも栄養バランスの整った食事ができるようサポートする……、といったように、楽しみながら結果的に健康を手に入れられるような仕組みが求められていると感じます。

**宮田** データの管理等については、課題を感じることはありませんか。

**野口** データ自体が手に入りやすくなりました。マーケティングを行い、特定データを得ることはできるのですが、消費者の趣向も買い物の方法も多様化するなかで、いわゆる「普通の一般家庭」の動向はつかみにくなっています。消費者に「刺さる」のはやはり個別化した提案なのですが、現状は消費者のパーソナルな部分が見えにくくなっていると感じます。

**宮田** 中小企業とやり取りをするなかでは、どういった課題を実感しますか。

**片山** 今後、企業の中の労働年齢は間違いなく上がりますが、国全体の労働人口は減少します。ですから、人材確保が企業の未来を大きく左右するというのを多くの事業者さまにご理解いただくのが、私たちのミッションでもあると日々痛感しています。健康経営や未病改善的なアプローチの実行は、優秀な人材に少しでも長く働いてもらうことにもつながります。働く人が健康であることが企業の持続的な成長の土台となるのですから、企業が直面しうる、あらゆるリスクに精通した保険のプロが企業ごとに綿密なリスクコンサルティングを行いながら、リスク軽減のための策を講じるというプロセスはたいへん重要です。

併せて、中小企業の事業者さまに健康経営の意義やメリットをいかにわかりやすく伝えるかという点も、現状の大きな課題です。大企業であれ、中小企業であれ、目に見える形で成果があらわれるまでにはそれなりに時間がかかります。「なぜ、今健康か」という根本的な価値観



を共有するのは、高いハードルです。

**宮田** 現状、すでに発表しているサービスや製品の今後の展開や広がりという点ではいかがでしょうか。

**高田** 当社の「住友生命「Vitality」」に加入していただいている方の生活習慣や健康状態に関するデータが今後、蓄積されていきます。今後、このビッグデータを基に、この分野に関心のある学術機関のみならずとも連携しながら研究を深めていく予定です。

未病産業を通じ、新たな価値を世の中に提供できるようチャレンジしていきたいです。

もう一つ、生命保険業界の動向ということについて、現在は健康増進型保険の商品開発がブームとなっております。業界全体が、高齢化、あるいは未病改善といった社会課題に対応できるポテンシャルをもった、価値ある商品の開発に前向きになっているのは非常に良いことだと思います。

**宮田** 未病産業を今後、さらに盛り上げるためには、どのようなアプローチが必要になるでしょう。また、行政として企業にはどのようなことを期待していますか。

**江崎** 既に皆さんお話の中に、今後の未病産業を普及させるためのヒントがあったと思います。人はまだ顕在化していないリスクには目が向かないし、健康的な生活習慣が大切だと頭では分かっているにもかかわらず実行できません。だったら「健康」を目的にするのではなく、「ワクワク、ドキドキするような楽しいことをやっていたら、結果的に健康になる」という仕組みを作ればよいのです。たとえば「ウォーキング」一つとっても、健康のためにただ歩くのではなく、「お花見」や「素敵なお茶店でお茶を飲む」ことを目的にするのです。ちょっとしたことで、目的を設定することで苦しいことが楽しいことになり

ます。

未病産業の広がりを考える上では、民間保険が鍵を握ると思います。誰もが平等なサービスを受けることが前提の公的保険では難しいことも、民間保険なら実現可能です。既に、民間保険の付帯サービスとして、健康管理に取り組んだ場合には保険金が安くなるという取り組みが始まっています。これからは、民間保険に加入することで、フィットネスクラブの人気プログラムが優先的に予約できたり、ハイキングやバーベキュー、スポーツ観戦など、様々なイベントに参加できるといったサービスがあったらどうでしょう。日本人は世界でも最も保険好きで国民と言われており、保険商品を見直すだけで新たに財布を開く必要はありません。保険金の一部がワクワク・ドキドキするサービスに回るだけで、巨大なマーケットが出現します。

超高齢社会を楽しく前向きに生きていくためには、「80歳になっても、100歳になっても、今が一番楽しい」を実現することです。誰もが最期まで楽しく生きられる社会を構築するには、既存の常識に捉われない自由な発想が必要です。

**宮田** 今回のパネルディスカッションを通じ、高齢化の進展とともに、社会における現役世代の位置づけが大きく変わったということが、みなさまも改めておわかりになったのではないかと思います。

ME-BYOコンセプトに基づき、個人が自らの健康に対してしっかりと投資するエコシステムを根付かせていくためには、企業や自治体、研究機関等の連携が不可欠です。分野・領域、そして立場に捉われず、今後も多角的な意見交換を重ねるなかで、未病産業が社会のなかで大きなプレゼンスを発揮するようになることを望みます。

## ME - BYO Japan 2018

2018年 10月10日(水)～12日(金)  
10:00～17:00 パシフィコ横浜 (Bio Japan 2018内)

**開催実績**

出展数	
企業・団体	36
アカデミア	5
市町	13
来場者数	約16,000名 (BioJapan2018来場者)

オープニングセレモニー



ME-BYO BRAND 認定授与  
株式会社ベネクスのリカバリーウェアが認定



会場の様子



**【出展企業等】**

イオン株式会社、住友生命保険相互会社、株式会社ブルックスホールディングス・me-byo valley “BIOTOPIA”、AIG損害保険株式会社、アサヒ飲料株式会社、アルケア株式会社、株式会社クレディセゾン、住友電気工業株式会社、損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社、一般社団法人日本セルフケア研究会/株式会社BP-TECH、ネオファースト生命保険株式会社、株式会社白寿生科学研究所、株式会社ファンケル、富士通株式会社、株式会社アグサ、株式会社ウエルアップ、江の島アイランドスバ、KDDI株式会社、参天製薬株式会社、株式会社志成データム、マニフレックス、ヤフー株式会社、株式会社横浜銀行、株式会社アミンファーマ研究所、株式会社疲労科学研究所、株式会社ベネクス、湘南口ボケアセンター株式会社、大阪健康寿命延伸産業創出プラットフォーム(OKJP)、経済産業省 関東経済産業局、市町村PR、富山県、(一財)松本ヘルス・ラボ、三重県、SDGs×Kanagawa、さがみロボット産業特区、神奈川県・未病産業研究会

**【アカデミア】**

神奈川県立保健福祉大学、東海大学、東京大学COI、横浜国立大学、横浜薬科大学

## 未病月間の取組

**未病月間とは** ME-BYOサミットを開催する10月を「未病月間」とし、未病に関する普及啓発イベントや広報を集中的に実施し、未病の概念や未病産業の動向等、未病に関する様々な取組について普及を図りました。

**県民フォーラム・ME-BYOキャラバン**

未病月間を中心に、県内各所で市町村と協働で講演会や体験型イベントを実施する「県民フォーラム」を開催するとともに、市町村等が開催する健康・産業関連イベントに、未病の概念をPRするブースを出展する「ME-BYOキャラバン」を実施しました。



**県民フォーラム・ME-BYOキャラバン実施箇所**

地域	市町村	日時	イベント名	会場
政令市	横浜市	11月10日(土) 12月1日(土)	未病改善県民シンポジウム かながわ健康財団主催 健康チャレンジフェアかながわ2018	パシフィコ横浜 クイーンズスクエア
横須賀・三浦	横須賀市	8月25日(土)、26日(日)	健康フェアin横須賀	イオン横須賀店
県央	厚木市	11月11日(日)	あゆみちゃん健康まつり×未病を改善する県民フォーラム	厚木市保健福祉センター
	大和市	11月18日(日)	健康都市やまとフェア2018×未病を改善する県民フォーラム	文化創造拠点シリウス
湘南	平塚市	10月20日(土)	食べて、動いて未病改善!! at花菜ガーデン	花菜ガーデン
県西	大井町	11月3日(土)、4日(日)	国際me-byoフェスタ2018	未病バレー BIOTOPIA

**ME-BYOキャラバン**

市町村	日時	イベント名	会場
横浜市	9月15～17日	ヨガフェスタ	パシフィコ横浜
横浜市	10月20日	AIGオールブラックスラグビーイベント	慶応大学ラグビー部下田グラウンド
横浜市	3月3日	かながわ女性の健康・未病フェア(仮)	横浜ワールドポーターズ
川崎市	9月29日	川崎競馬秋まつり	川崎競馬場
相模原市	8月25日	楽しく健康づくりフォーラム	津久井公民館
横須賀市	11月17日	生涯現役フォーラム2018	県立保健福祉大学
鎌倉市	10月11日	からだの衰え度チェック	たまなわ交流センター
逗子市	10月8日	体力測定会	逗子アリーナ
三浦市	11月18日	みうら市民まつり	潮風アリーナ
葉山町	2月	献血バス(仮)	未定
厚木市	12月15日	未病を理解して健康になるプロジェクト	睦合南公民館
大和市	5月12日	第41回大和市民まつり	引地台公園他
海老名市	4月14日～15日	えびな元気応援 健康フェスティバル	イオン海老名店
海老名市	10月14日	秋のえびな元気応援～健康フェア～	イオン海老名店
座間市	10月27日	子育てファミリー防災×ME-BYO (未病)キャラバン	イオンモール座間店
座間市	10月27日	神奈川再発見フェア	イオンスタイル座間店
綾瀬市	10月27日	健康スポーツフェスティバル	綾瀬スポーツセンター
愛川町	6月3日	健康フェスタあいかわ2018	健康プラザ、文化会館
清川村	7月3日	健康まつり	保健福祉センターやまびこ館
藤沢市	3月3日	女性の健康づくりキャンペーン	湘南モールフィル
平塚市	1月27日	中央公民館まつり	平塚市中央公民館
茅ヶ崎市	11月3日	糖尿病予防イベント	市役所ふれあいプラザ
茅ヶ崎市	2月3日～4日	健康フェアin茅ヶ崎(仮)	イオン茅ヶ崎店
秦野市	10月6日	健康はたの21フェスティバル	本町公民館
秦野市	2月3日	保健センターフェスティバル	保健福祉センター
伊勢原市	11月17日	健康バス測定会	伊勢原市役所分室
寒川町	11月15日	ロコモ予防教室	健康管理センター多目的室
大磯町	10月14日	大磯チャレンジフェスタ	大磯運動公園
二宮町	11月11日	湘南にのみやふるさとまつり	ラディアン
小田原市	11月17日	城下町おだわらソーデーマーチ	小田原城址公園他
南足柄市	12月2日	健康フェスタ	南足柄市保健医療福祉センター
中井町	11月3日	未病センター・なかい健康づくりステーション開設3周年記念	中井町保健福祉センター
大井町	4月28日	BIOTOPIAオープニング記念イベント	未病バレー BIOTOPIA
大井町	6月17日	ME-BYOフェスタ2018	未病バレー BIOTOPIA
松田町	11月25日	第21回まつだ産業まつり	町営松田臨時駐車場他
山北町	11月23日	山北町産業まつり	山北健康福祉センター
開成町	6月17日	開成町あじさい祭り	あじさいの里
箱根町	10月13日	HAKOJO MARCHE 2018	箱根やすらぎの森
真鶴町	11月10日	海のまち豊漁豊作祭真鶴龍宮祭	真鶴港
湯河原町	6月30日	いきいきシニア健康まつり	湯河原町民体育館

## 目指すは、「スマイル100歳社会」



### What's "ME-BYO(未病)"?

未病…健康と病気を2つの明確に分けられる概念として捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化すると捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。

### 「未病」をコンセプトに進める県の取組 ～ヘルスケア・ニューフロンティア～

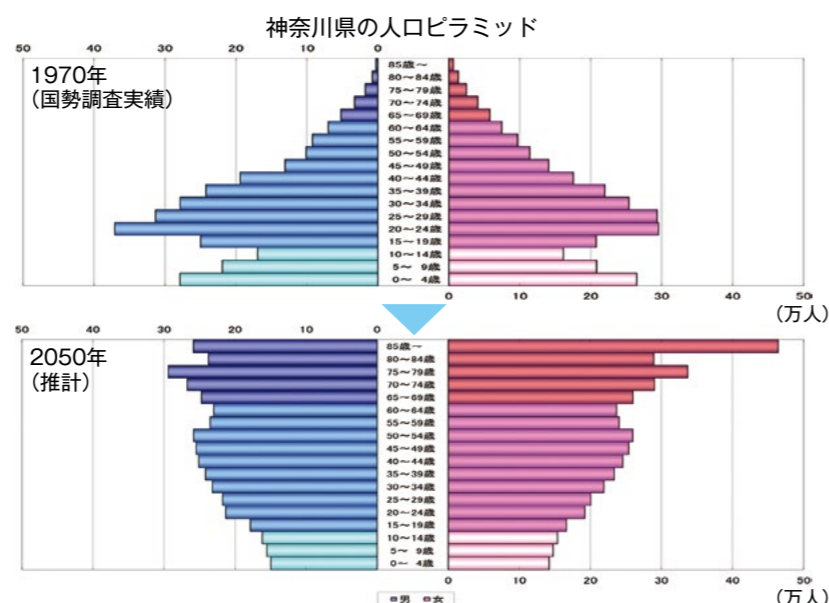
私たちは、人類がかつて経験したことのない超高齢社会を迎えようとしています。神奈川県では、「最先端医療・最新技術の追求」と「未病の改善」という2つのアプローチを融合させ

た取組を進めることで、超高齢社会を乗り越える「ヘルスケア・ニューフロンティア」という政策を進めています。

### 超高齢化という急激な社会構造の変化

#### 超高齢社会に向かう神奈川県

日本は世界で最も高齢化が進んでおり、特にこの神奈川は全国でも一・二を争うスピードです。そして、速度の違いこそあれ、先進国はすべてこの超高齢社会に向かっていきます。



#### 中長期的な改革が必要

このようなかつて経験したことのない社会構造変化の波が押し寄せる中で、現在の社会システムを今後も維持していけるかが試されています。こうした変化を乗り越えるためには、中長期的な改革が必要です。

### 超高齢社会という課題を解決するための二つのアプローチ

#### ① 「未病の改善」

心身の状態には、健康と病気、その間に未病という状態(グラデーション部分)があります。健康でありつづけるためには、この未病を改善していく取組が重要です。

#### ② 「最先端医療・最新技術の追求」

iPS細胞のように、日本には世界をリードする基礎研究が多くあり、これを革新的な医療として実用化していくことが重要です。



### 国家戦略特区の活用

また、国家戦略特区を活用し、この二つのアプローチを融合することにより、個別化医療を実現し、健康寿命を延ばし、誰もが健康で長生きできる社会をめざします。また、最先端の医療の分野を切り拓き、未病産業や最先端医療関連産業な

ど新しいビジネスモデルを生み出して世界に発信します。こうした新たなプロジェクトが「ヘルスケア・ニューフロンティア」の取組です。

## ME-BYO 未来 戦略ビジョン(抜粋)

### 「スマイル100歳社会」の実現に向けた総力の結集

すべての世代が元気で自立したライフスタイルを実践し、100歳になっても健康で生きがいと笑顔あふれる健康長寿社会(スマイル100歳社会)の実現を目指し、個人、企業、アカデミア、自治体などの役割と行動目標を定め、共通の認識を持って行動していくための戦略ビジョンをとりまとめ、実行していくことを確認しました。

### あるべき未来(2025年の目指すべき未来社会)

#### ライフステージの転換

高齢者という概念(年齢による区分)が変わり、生涯にわたる学びと社会参加を通じてアクティブな人生を送ることができる。

#### 個人・生活の場が主役に

未病の状態や将来の疾病リスクなどが見える化でき、専門家や行政のサポートのもとで、個人が未病改善に向けたサービス等を主体的に選択している。

#### 切れ目ないサービスの提供

健康・医療情報等の活用により、生涯を通じて切れ目のない医療・介護・健康づくりサービス等を受けられる。

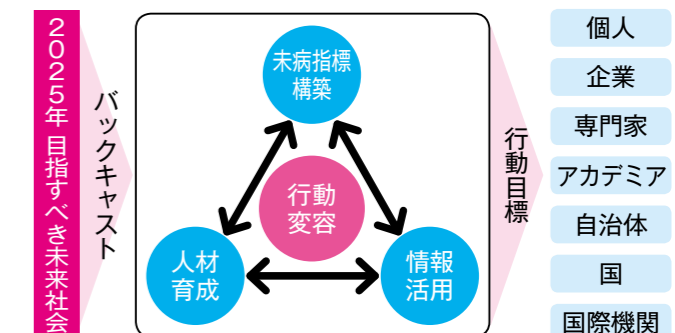
#### 最先端の医療や技術が身近に

最先端の高度な医療や技術が身近になり、気軽に活用でき、自立した生活機能の確保に役立つことで、健康生活の質の向上につながっている。

#### 生活の利便性の向上

IoT、AI、ロボットなどの技術革新により、人口減少の中で不足する労働力が補われることで、支える世代の負担も軽減され、生活全体の利便性も高まっている。

#### 持続可能な新たな社会システムの創出



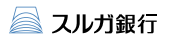
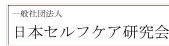
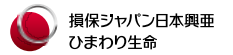
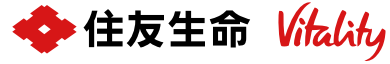
### プレイヤーの役割と行動目標

<b>個人</b>	(行動目標) ●健康に関するリテラシーを高め、未病指標を実装した商品・サービスを活用して主体的に未病を改善 ●人生100歳時代を見据えて、社会参加を含めたライフデザインを実践
<b>企業</b>	(行動目標) ●未病指標を実装した様々な商品・サービスを開発し、安全性を担保し有効性を明らかにして、個人のライフステージのニーズに応じて提供 ●生産性と健康満足度を向上させる健康経営を進め、従業員やその家族の未病改善やライフデザインの実践を支援
<b>専門家(医療関係者等)</b>	(行動目標) ●企業の商品やサービスの活用も含め、個人に身近なアドバイザーとして、未病指標に基づいて、生活全般にわたり幅広く関与し、指導
<b>アカデミア</b>	(行動目標) ●未病指標の構築や社会を変革する様々なイノベーションを持続的に創出するための研究を深化 ●次世代を担う人材育成プログラムを構築し、地域における健康づくりやヘルスイノベーションのリーダーとなる人材を輩出
<b>自治体</b>	(行動目標) ●住民が地域の中で未病指標を活用して自然と未病改善の取組に参加できる場づくり ●企業等の商品・サービスの積極的活用により個人に最適な未病改善メニューを提供
<b>国</b>	(行動目標) ●個人の行動変容を促進するインセンティブを組み込んだ保険制度改革の推進、ビッグデータの積極的活用に向けた環境整備などを通じて持続的な社会システムを構築 ●技術や商品・サービスの開発の促進に向けて、国家戦略特区やサンドボックス制度などの規制緩和を推進
<b>国際機関</b>	(行動目標) ●国際社会で活躍する人材の育成を支援し、未病に関する取組を積極的に情報発信 ●未病指標の国際標準化に向けたエビデンス研究と社会実装の促進



# 協賛企業 Official Sponsors

Eat Well, Live Well.



お問い合わせ  
「ME-BYOサミット神奈川」 実行委員会  
神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室  
TEL 045-210-2715 FAX 045-210-8865